

## 診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院分院腎センター内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として研究対象として扱わせていただきます。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

### 【対象となる方】

調査対象となる期間： 2015 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日の間 に、  
多発性嚢胞肝のため虎の門病院分院腎センター内科に入院・通院し治療を受けられた方

### 【研究課題名】

多発嚢胞肝の肝不全予測因子の検索

### 【研究の目的・背景】

#### 《目的》

常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)患者さんにおける、肝嚢胞の増大と肝不全との関係、肝不全と相談する因子を検索することを目的として行います。

#### 《研究に至る背景》

常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)は、両側の腎臓に多数の嚢胞が進行性に発生・増大し進行性に腎機能が低下し末期腎不全に至る最も頻度の高い遺伝性腎疾患ですが、肝嚢胞が多発・増大することも本疾患の特徴です。肝嚢胞の増大は腹部膨満の原因となるだけでなく、正常肝容積の縮小は肝不全を引き起こし、感染症や出血などの増悪要因が加わると慢性肝不全の急性増悪を起こし致死的となると言われています。しかし ADPKD 患者さんの肝機能について検討された報告は乏しく、腎臓と同様、進行性に肝実質が嚢胞に置換されることで肝機能が低下するとされていますが、それによって引き起こされる肝不全の機序は検討されていません。本研究は ADPKD 患者の肝機能の実態を明らかにするとともに、肝不全の要因と肝機能と相関する因子を検索することを目的として行います。特に残存肝容積や脾臓の容積と肝機能の相関、ICG 試験が肝予備能の評価として有用であるかを評価します。本研究により肝不全のリスクが明らかとなれば、早期に評価し、嚢胞肝の管理と適切な時期での肝移植を含む非代償性肝硬変への対策を行うことが可能となることが期待されます。

### 【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2025 年 7 月 24 日 ～ 2030 年 3 月 31 日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院分院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院分院腎センター内科 諏訪部達也 のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報： 検査データ、画像(X 線・CT・MRI 等)データ、診療記録薬歴、看護記録など

【研究代表者】

虎の門病院分院腎センター内科 諏訪部達也

【虎の門病院分院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：虎の門病院分院腎センター内科 諏訪部達也

研究機関の長：分院長 竹内靖博

【利用する者の範囲】

該当なし

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2025 年 12 月 31 日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院分院 腎センター内科 大庭悠貴

電話 044-877-5111(代表)